

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号 27-21	学 校 高等学校	教 科 数学科	種 目 数学 I	学 年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	数 I 334	新編数学 I		

1. 編修の趣旨及び留意点

数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 編修の基本方針

- ①当該科目に関する知識と技能を確実に身につけ，それらを活用して思考・判断・表現する能力を伸ばすために，記述や題材に配慮した。
- ②1つの題材に対して複数の考え方があることを適宜示し，いろいろな立場を尊重する態度を養うことができるようにした。
- ③生活に関連のある題材や，数学を発展させた先人たちの業績について扱うことで，数学に対する興味・関心を高め，社会の形成・発展に主体的に関わろうとする態度を養うことができるようにした。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し 1章	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の歴史に関する内容を扱い，数学を発展させた先人たちの業績に触れることで，伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした(第5号)。 ・身近な題材を扱うことで，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養えるようにした(第2号)。 ・本文内容を補充する内容や，学習内容の理解を深めるための発展的な内容を扱うことで，幅広い知識と教養を身に付けられるようにした(第1号)。 	<p>前見返し， p. 18 の 15～24 行</p> <p>前見返し， p. 35 の 6～21 行，</p> <p>p. 11， p. 18 の 1～14 行， p. 27， p. 38</p>
2章	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材を扱うことで，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養えるようにした(第2号)。 ・本文内容を補充する内容や，学習内容の理解を深めるための発展的な内容を扱うことで，幅広い知識と教養を身に付けられるようにした(第1号)。 	<p>p. 51 の 2～10 行</p> <p>p. 52</p>
3章	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材を扱うことで，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養えるようにした(第2号)。 ・1つの題材に対して複数の考え方を示し，他者との協力を重んずる態度を養うようにした(第3号)。 	<p>p. 71</p> <p>p. 84 の 3～16 行</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 本文内容を補充する内容や、学習内容の理解を深めるための発展的な内容を扱うことで、幅広い知識と教養を身に付けられるようにした（第1号）。 	p. 90
4章	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を扱うことで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 1つの題材に対して複数の考え方を示し、他者との協力を重んずる態度を養うようにした（第3号）。 	p. 96の11～21行, p. 97, p. 109の4～6行, p. 117 p. 99の10～15行, p. 100の12～17行
5章	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を扱うことで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 	p. 120～123, p. 129～130
課題学習	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を扱うことで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 数学の歴史に関する内容を扱い、数学を発展させた先人たちの業績に触れることで、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした（第5号）。 	p. 144～149 p. 146
4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能を習得するために、巻末に「補充問題」を設けた。 読みにくい漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身に付くよう配慮した。 		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号 27-21	学 校 高等学校	教 科 数学科	種 目 数学 I	学 年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	数 I 334	新編数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 指導者にとっては指導しやすく, 学習者にとっては理解しやすい教科書
- ・天下り的な説明はできるだけ避け, 具体例を通じて理解できるような説明にした。
 - ・平易な語句・表現を使い, 簡潔かつ明快な記述にした。必要に応じて, 本文や解答を補足するための注釈を置いた。
 - ・教材の配列については, 生徒が無理なく理解できるよう, 十分配慮した。とくに, 中学校での学習内容とのつながりを重視し, 初出の内容にスムーズにはいることができるようにした。
 - ・学習内容はできるだけ細分化し, 段階を追って確実に知識や技能が身につけられるようにした。
 - ・計算の負担を軽減し, 本質部分の理解に集中できるよう, 十分配慮した。
 - ・各節の標準的な内容については, くり返し練習できるようにした。
- (2) 数学への興味・関心を喚起し, 数学的な考え方のよさを認識できる教科書
- ・具体的な問題を解決する場面を適宜取り上げ, 数学的な見方・考え方のよさを感得できるようにした。
 - ・節末や章末では, 理解を深めるための問題や, 本文に関連する興味深い内容も扱うようにした。
- (3) ビジュアル面を工夫した, 読みやすい教科書
- ・ユニバーサルデザインフォントを採用し, 読みやすさの向上に努めた。
 - ・レイアウトを工夫して, 紙面をすっきりさせた。
 - ・公式などの重要事項は, 太字にしたり, 枠で囲んだり, 表にまとめたりして, 強調するようにした。
 - ・本文をカラーにしたり, 図版・イラスト・アミ版などを適切に掲載したりして, 視覚的な効果にも配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	担当 時数
1章 数と式 1節 式の展開と因数分解 2節 実数 3節 1次不等式	(1) 数と式 ア 数と集合 (ア) イ 式 (ア) イ 式 (イ)	p. 2 - 39	25
2章 集合と論理 1節 集合と論理	(1) 数と式 ア 数と集合 (イ)	p. 40 - 53	9
3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次方程式・2次不等式	(3) 二次関数 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値 の変化 (ア) イ 二次関数の値 の変化 (イ)	p. 54 - 91	24

4章 図形と計量 1節 三角比 2節 図形の計量	(2) 図形と計量 ア 三角比 (ア) ア 三角比 (イ) ア 三角比 (ウ) イ 図形の計量	p. 92 - 119	18
5章 データの分析 1節 データの分析	(4) データの分析 ア データの散らばり イ データの相関	p. 120 - 133	8
課題学習	課題学習	p. 144 - 149	6
		計	90

※年間授業時数を 90 時間として配当している。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-21	高等学校	数学科	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	数 I 334	新編数学 I		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
11	3 次の乗法公式	1	(1) 数と式 「式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。」
18	3 次式の因数分解	1	(1) 数と式 「式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。」
27	二重根号をはずす	2	(1) 数と式 「式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。」

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 3)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容